



あねたい はるじ 姉帯 春治 議員

### 問 役場庁舎建設の事業予定は

### 答 年度内に基本的な方向性

#### 庁舎建設の検討状況

**議員** 新役場庁舎建設に係る現時点での検討状況と、今後の作業スケジュールを伺う。

**町長** 現在の役場庁舎は建設から42年が経過し、施設・設備の老朽化のほか、耐震性能対策も必要な施設であることから、新庁舎の整備に向けた検討を進めている。現在の検討状況は、昨年度に庁舎建て替えに関する基礎調査を実施しており、今年度は職員による新庁舎建設庁内検討委員会を立ち上げ、現庁舎の課題と解決に向けた新庁舎建設の基本的な整備の方向性について検討を進めている。今後のスケジュールは、年度内に施設整備における基本的な方向性を取りまとめ、町民の意見も伺い、その内容を踏まえ

から順次、基本設計、実設計を行い施設整備に係る詳細を詰めた上で、建設工事に移行したいと考えている。

#### 新庁舎の複合化

**議員** 新庁舎を複合化する考えはあるか。複合化する場合、どのような機能を持たせるのか。

**町長** 新庁舎建設に当たっては魅力的な空間を創出し、町民はもとより町外の方からも興味を持って立ち寄っていただけるような施設とし、新たな相互交流が生まれる場所になりたい。主に行政・交流・防災安全・商業の機能を複合させることで検討を進めている。

#### 新庁舎の構造

**議員** 新庁舎の構造はどのようなになるのか。町産材活用への考えは。

**町長** 現在、構造を含め

新庁舎建設の基本的な整備の方向性について検討を進めている段階であるが、最近、整備された県内の庁舎建設を参考にすると、住田町は木造、八幡平市と遠野市が鉄筋コンクリート造、紫波町は木造一部鉄筋コンクリート造となっている。

町ではこれまでも公共施設には、できるだけ町産の集材材を活用する取り組みを進めてきているが、他団体における建設事例などを参考に、施設の機能や規模、建設コスト、維持管理コスト、防災上の観点など総合的に精査した上で判断したい。



築42年経過している役場庁舎。新庁舎は町の中枢機能を発揮することが期待されます。

## 梶原町の取り組みを学ぶ

輝くふるさと常任委員会（鈴木満委員長）は、10月17日から19日、鈴木町長も同行し、高知県森林組合連合会会館、梶原町を視察。豊かな森林資源を活用したさまざまな取り組みを視察し、今後の町づくりの参考のため研修しました。

### CLTを使った 県森連会館

高知県森林組合連合会館は県庁所在地である高知市に隣接した南国市に建設されています。同会館は県のCLT（※）プロジェクト第1号であり、建築面積759.54平方メートル、木造軸組構法、2階建ての事務所です。強い構造材であることや工期短縮、環境貢献、森林資源の活用等の観点からCLT部材を使用しており、また、全ての建



CLT部材を活用した高知県森連会館

（※）CLT 板の繊維方向が層ごとに直交するように重ねて接着した厚型パネル。

築資材に県産木材を活用した施設になっています。設計時、CLT部材が建築基準法で認められておらず、認可を受けるべく国、県、大学教授、CLT協会、工業会社等に指導を仰ぎました。建設費は約4億円です。

### 環境モデル都市 梶原町の取り組み

梶原町は高知市から車で90分の高知県の西部に位置する面積236.5平方メートル、人口3608人、高齢化率42.3割の町です。「環境モデル都市」を目指し自然エネルギーによる町づくりに取り組んでいます。23年に小水力発電所が完成し、有効落差約6メートルを得て最大出力53キロワットを発電。発電した電気を日中は小中一貫校に、夜間は町中心部の街路灯82基に供給しています。



梶原川に架かる木製の車道橋「梶原橋」

29年3月にジビエカー（※）を購入し、ジビエ新メニューを作成、加工品製造販売、人材育成などに取り組んでいます。また梶原町は森林資源を活用した木の里づくり運動を展開しており、公共事業への木材使用の一貫として木橋が3橋あり、地域のシンボルとなっています。

（※）ジビエカー インシヤシカなどを捕獲後に適切な設備のもと解体できる車。現地で素早い処理ができるため、より良質な食肉利用が可能となります。

## 輝くふるさと常任委員会 研修レポート in 高知

### CLT工法、木橋などを視察